

《眼科臨床エキスパート》 オキュラーサーフェス疾患 目で見る鑑別診断

吉村長久, 後藤 浩, 谷原秀信, 天野史郎 シリーズ編集
西田幸二, 天野史郎 編

眼科の魅力の一つに「直接目で見ることができる」というがあると思う。ラポデータや画像を介しての診断が主体となる他科と異なり、眼科疾患の多くはスリットランプや眼底鏡などで直接見て診断を下し、治療効果の判定を行うことができる。特にオキュラーサーフェスは、そのすべてをスリットランプで観察することができる。眼科医ならば誰でも、オキュラーサーフェスの観察は日常的に行っており、施設や器械によってできたりできなかったりということはない。

すると以下のような疑問が生じる。「誰にでも見ることができるのであれば、誰でも同じように診断できるのではないか？」答えは当然「ノー」である。同じ症例を前にしても、レジデントと専門医ではその診断技術に大きな差がある。ではその差は、接したことのある症例数、いわゆる「経験の差」に由来するのであろうか？ これは半分は正解だが、半分はそうとも言えない。確かにスリットランプという単純な器械でもその使い方は奥が深い。しかし専門医の診断技術の神髄は、その頭の中にあると思う。オキュラーサーフェスは診断や治療に頭を使う分野である。眼で見た所見と病歴を元に、頭の中で病態のストーリーを組み立て、それを元に治療計画を立てる。その過程こそが経験の差であり、単なるデータ量の問題ではない。

ここに紹介する『オキュラーサーフェス疾患一目で見る鑑別疾患』を読むと、オキュラーサーフェス専門医の頭の中をのぞくことができる。単なる疾患写真の

羅列ではなく、どのように診断を下していくかが丁寧に書かれている。総説Ⅰの「オキュラーサーフェス疾患の診断概論」(西田幸二先生担当)は、オキュラーサーフェス疾患をその病態から分類して俯瞰しているし、総説Ⅱ「オキュラーサーフェス疾患における細隙灯顕微鏡の使い方」(天野史郎先生担当)は、スリットランプの使い方の極意を懇切丁寧に書いている。

各論も、角膜では「点状表層角膜症」「角膜上皮欠損」「角膜潰瘍」「角膜沈着病巣」「角結膜瘢痕」「角膜浮腫」と、所見別にその鑑別のポイントがわかりやすく書かれており、角膜以外の結膜、眼瞼、涙液と同様の構成となっている。あたかも症例を前にした眼科医に直接指導しているような趣がある。加えて、角膜形状解析や前眼部 OCT、マイボグラフィやその他の細胞生物学的・遺伝子診断などにも触れられていて、オキュラーサーフェス専門医にも有用な内容となっている。

本書は、通読して頭の中を整理するにも適しているし、日常診療で診断に迷った際に開くにも適している実用的な好著である。

東歯大市川総合病院眼科部長 島崎 潤

B5・頁 320 2013 年

定価：本体 15,000 円＋税

[ISBN978-4-260-01873-9] 医学書院刊